社会福祉法人　輪島市福祉会
あ て の 木 園

□特別養護老人ホーム　□短期入所センター（介護保険・介護予防）　□デイサービスセンター（介護保険・介護予防・元気デイ・筋力向上トレーニング）　□訪問介護センター（介護保険・介護予防）　□訪問入浴介護センター（介護保険・介護予防・身体障害者等入浴）　□居宅介護支援事務所　□在宅介護支援センター　□配食サービス　□しせつの窓□

■□□　文化の秋　利用者作品展覧会の開催

11 月 7 日～8 日にかけて２０１５あての森三井の里文化祭に利用者の作品の出展（三井公民館にて）、11 月 17 日～20 日にかけて第 30 回社会福祉施設利用者余技展（石川県社会福祉会館にて）に利用者、ショート、デイ利用者の作品を出展しました。

施設内においては、11 月 25 日～30 日にかけて利用者、ショートステイ・デイ・ヘルパーサービスの利用者作品展を開催しました。

利用者の皆さんの作品には努力の成果がみられ、どれも立派なものでした。ご本人のリハビリテーションと自己表現の一環として、今後も作品作りを続けていきたいと思います。

皆さんの作品の一部を紹介します。

■□□　感染症予防対策　□□■　冬季に向けての健康管理について

11 月 27 日に年 1 回の利用者対象に胸部レントゲン検査を行いました。（年 1 回の胸部レントゲン検査は義務付けられています。）

また、インフルエンザの予防接種も 11 月下旬より利用者から接種を希望する方や家族の要望に接種してほしいと依頼のあった方に対して行いました。インフルエンザやノロウイルス対策が必要な時期となりましたので、ご面会やご来園の時は手洗い（正面玄関ある洗面台、備え付けの手指消毒器でお願いします。）やうがい、マスクの装着をお願いいたします。

■□□　心も体も温める長寿うどん　■□□　輪島飲食業同業組合の皆さん

“温かいうどん”実演提供ボランティア
220 食の調理提供

11 月９日に輪島飲食業同業組合の河上美知男組合長他７名の合計８名の方が来園され、長寿うどんの実演提供をしてもらいながら、温かいうどんを利用者や職員の方に振る舞いました。

温かいうどんの実演提供ボランティアは今年で９回目になるそうで、ここ数回は毎年あての木園に来て頂いております。

温かいうどんがおいしくておかわりをしている方もいて、お腹から体と心が温まりました。

本当にありがとうございました。

■□□　第５期　改修工事　□□■

新館喫茶コーナー、トイレ改修、正面玄関改修工事が完成
本館談話コーナー改修工事完了は 12 月 25 日を予定

８月より行っております第５期改修工事ももうすぐ完了致します。

完成した個所から随時引き渡しを受け、使用している状況です。特に正面玄関改修においては、ご家族の方にご迷惑をおかけしました。本館談話コーナーについては 12 月上旬に床の張替を行う予定で、12 月２５日に完成予定です。

もうしばらく皆様にご迷惑をおかけしますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

■□□　市民フォーラム　□□■

輪島の未来を考える　～もし病院がなくなったら、どうしますか～　自分たちの生活・健康、地域の医療を守りために私たちができること　講師：医療法人社団ささえる医療研究所理事長　村上智彦氏

12 月５日に市民フォーラム（主催：わじまケアネット連絡協議会、共催：輪島市、後援：能登北部医師会、輪島市歯科医師会）が開催されました。

わじまケアネット連絡協議会は、輪島市内の介護保険施設や居宅介護支援事業所、市立輪島病院、開業医、開業歯科医が安心して生活できる輪島市を目指して研修会や情報交換、連携する協議会です。

今回、理事長兼医師である『村上智彦』先生より医療・介護でまちづくりについて学びました。専門家である医療職・介護職は根拠のあるサービスの提供が必要、次の世代に引き継ぐことの大切さを学びました。

■□□　認知症対応型通所介護事業の展開　□□■

輪島市福祉会が来年８月１日から認知症対応型通所介護事業所を輪島市内に開設することとなりました。この事業は地域密着型サービスのひとつで、認知症状があっても住み慣れた地域で生活が送れるようにするために、認知症の方を対象としたデイサービス事業です。

建設予定地は、旧鳳至保育所跡地（輪島市堀町）を予定、建設予定費用は５９，３００，０００円認知症の方を対象とするデイサービスの他、地域の方と交流できるような地域交流室兼認知症の方の理解を深めるための研修室・学習室も併設予定です。また、一般高齢者や介護予防１・２の方を対象とした地域総合支援事業のデイサービスも併設予定です。

この事業によりもっと積極的に輪島市福祉会として地域貢献に取り組んでいきたいと思います。

■□□　３６５日の笑い　わたしたちが支えます。

石川県老人福祉施設協議会ポスターより
「自立・健康・生きがい」づくりに貢献する職場で
スタッフとして一緒に働きませんか！

本日もおお笑い！
そんな毎日にありがとう。
笑ったり、おこったり。
元気な日もあれば、沈んだ日もある
毎日の暮らしを共に過ごす
人生の先輩に敬意をこめて、まっすぐに応えたい。
きょうも一緒に笑えた事に、
『ありがとう。』

◆輪島市福祉会では職員を募集しております。
お問合せ先(あての木園谷口まで)　☎26 - 1661 へ
介護職員(５名)、機能訓練指導員(２名)、看護師及び准看護師(２名)、介護支援専門員(１名)、調理員補助(２名)、臨時介護職員(３名)、登録ヘルパー(２名)、臨時看護師及び准看護師(２名)

■□□　ダイコンをたべて元気になって　□□■

門前高校キャリアコースの皆さんから

11 月 17 日門前高校キャリアコースの１年生５人が畑で育てたダイコンを 10 本寄贈されました。
「老人保健施設　百寿苑」「地域密着型特別養護老人ホーム輪島荘」の２施設にも贈ったそうです。
おいしそうなダイコンを皆さんで頂きました。

北國新聞　平成 27 年 12 月 6 日　朝刊より

■□□　マイナンバー制度関連の新聞記事より　□□■

北　國　新　聞　　新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738 円（税込み 4,037 円）、朝刊月ぎめ 本体価格 2,864 円（税込み 3,093 円） 1部売り（税込み）朝刊 130 円、夕刊 50 円　第３種郵便物認可　⑧

国内に住む全ての人に番号を割り当てる「マイナンバー制度」で、石川県内の福祉施設や自治体が認知症高齢者への対応に頭を悩ませている。来年1月以降、介護保険関連の書類に個人番号の記入が必要になるが、本人の記入や理解が難しいケースが想定される。代筆などに関する福祉施設向けの通知は国から出ておらず、担当者は「何らかの指針を示してくれないと対応できない」ともどかしさを募らせている。

マイナンバー
認知症者対応手探り

「取り扱いに困る」「国の指針示して」

県内福祉施設や自治体困惑

「通知カードを預かっているが、どう対応すればいいのか分からない」。県内でいち早く番号通知カードの配達が始まった、珠洲市内の福祉施設の担当者はため息を漏らした。施設では認知症の疑いのある入所者本人にカードを渡すと紛失や破損の恐れがあるため、金庫にしまったままだ。

今後は個人番号カードを申請するかどうかの意思確認が難しいケースも出てくる。施設では家族向けの説明会を開く予定で「通知カードをどう管理するかや、介護保険手続きの際、職員がマイナンバーを代筆するか、家族が記入するのかを話し合いたい」と話した。

輪島市内の福祉施設の担当者も「身寄りのない高齢者や、親族が遠方に住む高齢者のカードの取り扱いに悩んでいる」と明かす。介護保険の手続きについて「こちらで代筆などのルールを決めた後で、国の指針が出て問題になっても困る」と話した。

各自治体も、施設や一人暮らしの高齢者を見守る民生委員などに方針を示せず、苦慮している。

金沢市によると、国は介護保険業務に関するマイナンバー利用上の留意点を、10月中に発表する予定だったが大幅にずれ込み、今月4日現在、まだ出ていない。国に問い合わせたところ、12月中に発表するとしており、担当者は「連絡を待つしかない状態」という。

輪島市では、認知症の高齢者の家族から「本人に受け取らせたらどうなるか分からない」と不安がる声が寄せられた。同様に能登町でも、金沢に住む息子や娘から「心配なのでこちらにカードを送ってほしい」との電話がかかったが、制度上できず、担当者は心苦しい思いをしている。

金沢市南部で民生委員を務める70代女性は「民生委員も制度を十分に理解していない面もある。お年寄りに聞かれても『大事に取っておいて』としか言えない」と困り顔だ。女性は市にマイナンバーに関する講座開催を依頼する方針だ。

福祉施設や自治体では、国からの通知が遅れるほど、準備期間が短くなるとの懸念が出ており、ある福祉施設の担当者は「分かっているのは負担が増えることだけ」と不満を口にした。

郵便局に段ボール箱で運び込まれたマイナンバーの通知カード＝10月、珠洲市内

利用者のマイナンバーの取扱いについて、国や県の方針がでましたら、速やかにその方針に従った対応に致しますので、皆さまでしっかりと保管して下さい。